



かつて大阪のムクドリは、市街地で普通に繁殖しているような鳥ではなかったそうです。それが市街地で普通になったのは、どうやら1980年頃以降。その後、市街地周辺で繁栄を謳歌してきたわけですが、21世紀に入ってあいついでライバルが登場してきました。そこで、今回はムクドリのライバル達に注目してみます。テーマはイソヒヨドリとハッカチョウの市街地進出です。

●イソヒヨドリの内陸への進出

イソヒヨドリ(図1)は、その名の通りかつては海岸近くで見られる鳥だったのですが、現在日本各地で内陸に分布を拡げています。

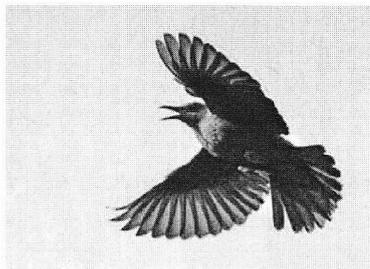


図1：イソヒヨドリ♂のディスプレイフライト(納家 仁)

大阪府での最初の内陸での記録は、1979年頃の事で、箕面駅前(箕面市)で囀っていたといいます。その後、あまり動きはなかったのですが、1999年代後半に動きが激しくなります。1997年に摂津市と河内長野駅(河内長野市)、1998年に久米田池(岸和田市)、1999年に光風台駅(豊能町)、相次いで内陸でイソヒヨドリが見つかり始めたのです。その後も大阪府の内陸でのイソヒヨドリ情報はどんどん増えていきました。

すでにイソヒヨドリは薄く広く大阪府のあちこちにこのような気がします。そこで、どこまで拡がっているかを、2014年の繁殖期に大阪鳥類研究グループと大阪市立自然史博物館で調べています。途中経過(図2)を見ると、想像以上に大阪府の市街地周辺に広くイソヒヨドリが拡がっている事がわかります。

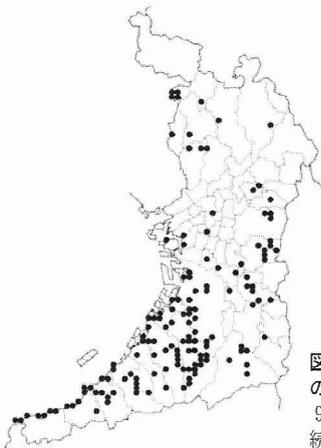


図2：大阪府でのイソヒヨドリの繁殖分布。2014年3月～6月9日までの確認地点。調査は継続中。

●ハッカチョウの東征

日本では、沖縄県以外のハッカチョウは、ペット由来の外来生物と考えられます(図3)。関西で最初に定着したのは兵庫県南西部です。1982年に兵庫県姫路市で繁殖して以降(兵庫野鳥の会1991)、姫路市から明石市にかけての兵庫県播磨地域に広く定着・繁殖するようになりました。

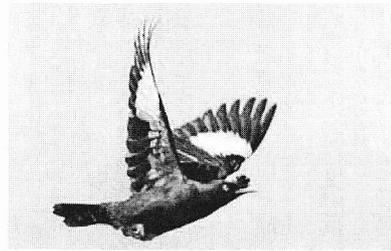


図3：ハッカチョウの飛翔(福田幸充)

大阪府では、1983年に豊中市で繁殖記録があるのですが、その後1989年の富田林市以外しばらく記録はありません。それが、2003年に高槻市、2005年に淀川の長柄橋で繁殖が確認されました。以降、各地で記録されるようになり、とくに2012年頃から、確認地点が増えつつあります。

そこで、イソヒヨドリと同じく2014年の繁殖期の生息状況を調べています。途中経過(図4)を見ると、淀川の長柄橋周辺以外に、4ヶ所で確認されています。いずれも昨年以前にも記録されている場所で、定着しているようです。

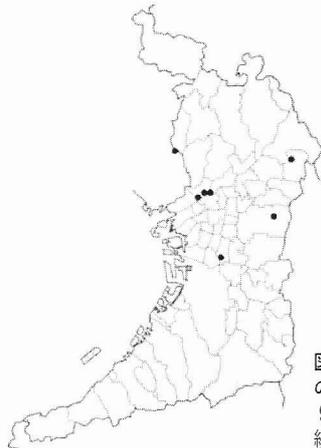


図4：大阪府でのハッカチョウの繁殖分布。2014年3月～6月9日までの確認地点。調査は継続中。

●野外で実際に観察してみよう

図1も図3も、2014年の繁殖期の調査の途中経過です。さらに情報を集めて、2014年時点での大阪府のイソヒヨドリとハッカチョウの繁殖分布を記録に残しておきたいと考えています。もし図にない場所でイソヒヨドリやハッカチョウを確認したら、観察日と詳しい観察場所(所管地まで)を、ぜひお知らせください。

イソヒヨドリもハッカチョウもムクドリとほぼ同じ大きさです。人工建造物の穴やすき間を営巣場所を選び、樹木の果実や地面の虫をよく食べるという点でもムクドリに似ています。現在は市街地で繁栄しているムクドリですが、イソヒヨドリやハッカチョウがさらに台頭してきた時には、どうなるのでしょうか？ 市街地で密かに進行している三つ巴の関係には目が離せません。

●引用文献

泉 良雄・泉 敏子(1989)大阪のとり。むくどり通信(82): 10。
加藤那美子・又野淳子・徳田初江(2003)大阪のとり。むくどり通信(168): 9。
日本野鳥の会大阪支部鳥類目録編集委員会(2002)大阪府鳥類目録2001。日本野鳥の会大阪支部。大阪。135pp。
兵庫野鳥の会(1991)兵庫の鳥 増補改訂版1990年。兵庫野鳥の会。神戸。339pp。

和田 岳(わだ たけし): 本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>